

『自己決定』により豊かな生活を作り出すたのしい生活科学習

Living Environment study : creating rich school life by having self-determination

ー第一学年 生活科「シャボン玉となかよし」の実践からー

The Unit of “Let’s be friendly with soap bubbles” for first grade.

森麗名

MORI Reina

岐阜聖徳学園大学附属小学校

Gifu Shotoku Gakuen University elementary school attached

本単元では、子どもたちに多くの自己決定の機会を与えることができると考えた。どんな材料でシャボン玉を試すか、どんなシャボン玉を作ろうか、そのためにはどんな材料が必要か、どんな場所で活動しようか、どんな工夫をしたらいいか、などである。単元の中で自己決定の幅を徐々に広げては振り返る活動を通して、自然や社会とのかかわりにおける基礎、学習の方法や自立的に学習していく態度（自発性・能動性・主体性・自立性・創造性）を作り出すことができた。

【キーワード】 自己決定 シャボン玉 豊かな生活 第一学年

1 目的

生活科の目標に『自立への基礎』という言葉がある。自立するのは子ども自身のことであるが、いかに子どもが主体的に対象にかかわるかに左右されるであろう。生活科の活動は子どもが主体であり、自分の活動を自己決定することができるよさがある。だからこそ具体的な願いが生まれ、たとえ困難なことに直面しても乗り越えたいと思う子どもが育つと考えている。それに加え、活動の中で子どもたちにとって価値のある人との交流活動が用意されれば、友達と学ぶよさ、人とのかかわるよさを感じることができる。また友達の話聞き、自分の学びを振り返ることで気づきが深めることができると考えた。

2 方法

(1) 思いや願い・質の高い気づきを引出す指導の在り方

「どうしてこうしたの。」「どうやったらできたの。」と問い返すことにより、子どもの思いや願いを引き出し、対象へのかかわり方の気づきを生み出した。

(2) 子どもたちが思い、願いをもち自己決定していこうとする単元指導計画の作成

第一次：シャボン玉をとぼそう

第二次：身の回りのものでシャボン玉を作りたいな

第三次：こんなものでシャボン玉を作りたいな

第四次：こんなシャボン玉できるかな

第五次：シャボン玉大会をしよう

第六次：シャボン玉となかよくなれたかな

(3) 自己決定を迫られる環境設定

予め用意した材料を並べ、子どもたちが自由に試すコーナーを位置付けた。また自己決定の幅が広がる第四次では、一人の活動が自然の流れで共通の願いをもった子の集まるグループ活動へと発展していくように「学習の歩み」の

掲示の仕方を工夫した。

(4) 思いや願いを達成していくための表現活動の充実

活動の合間には中間交流を位置付け、自分の遊びについて物を見せながら話すように指導した。活動の終わりには、「うれしかったこと、楽しかったこと」「不思議だったこと」「悲しかったこと、くやしかったこと」という視点で対象とのかかわりに気付かせる時間を位置付けた。

3 結果

「学習の歩み」を掲示することで、休み時間にも仲間の歩みを楽しそうに見ている姿があった。そうして、活動中にも仲間と力を合わせて活動する姿があった。第六次では、「色々なことに挑戦したら色々な形ができて楽しくなりました。」「工夫したら、いい目当てができました。」と振り返っている子が多く見られた。

4 考察

シャボン玉は多くの自己決定の機会を生み出し、活動が広がっていったため、良い教材だったと考える。単元の中で自己決定の幅を徐々に広げていくことによって、子どもたちが安心して活動することができたと考える。

5 まとめ

本研究では以下のことが明らかになった。

(1) 自己決定する機会を多く取り入れることで、「先生やって。」という子どもからまず自分でやってみたい子が増えた。それにより楽しい活動になったり新たな目当てをつくることができるという気づきにつながった。

(2) 物を見せながら話す中間交流の位置づけによって、生活科以外の場でも仲間同士の関わりが増えた。今後交流活動については活動の様子を見ながら検討していく。

(3) 学習の歩みは、子どもが自分自身への気づきを生み出し、新たな課題をもつきっかけになる。